

科目名	臨床検査技術学特別研究			分野・必選別・単位数	専門科目 (臨床検査技術学)	選択	10単位
科目責任者	◎教授 川杉和夫 教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授 望月 眞 教授(兼) 榎村浩一 准教授 福田晃子 准教授 松村 充 准教授 藤原孝記 講師 黒田雅顕						
課程	博士前期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	<p>【1年次:医学英語】 英語で書かれた教科書、専門書や論文を利用できるようになるため読解力および作文力を身につける。</p> <p>【2年次:特別研究】 臨床検査技術学分野の先端血液解析学講義・演習、感染制御学講義・演習、病原体検査学講義・演習、生体防御機能解析学講義・演習で修得した知識や問題意識をもとに、臨床検査医学上の課題に取り組み修士論文を作成する。研究プロセスを一通り経験することにより、臨床検査技術学における研究能力を高めるとともに、幅広い臨床検査分野の実学面で適切な問題設定をする能力を高めるよう指導を行う。</p>						
授業の到達目標	<p>【1年次:医学英語】</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語で書かれた医学論文を正確に理解し、日本語に訳すことができる。 PubMedによる検索を効果的に利用できる。 <p>【2年次:特別研究】 課題とする研究領域における学識を深め、探求することにより、研究テーマを選択し、研究計画書の作成、データの収集・分析を行い、学術的意義の高い論文を作成できる。</p>						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【医学英語】 (鈴木幸一) 医学論文等の読解や英訳、英語によるプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>【特別研究】興味ある課題につき教員と相談する。ある程度のオリジナリティを出すことが可能なので、進んで当該分野のフロンティアを調査する。 ①予備データや文献をもとにディスカッションすることができる。②できるだけ意義の高い研究がまとめられるようになる。</p> <p>【研究テーマ】</p> <p>(川杉和夫) 血液凝固・線溶系に関する研究</p> <p>(鈴木幸一) 感染や組織傷害による自然免疫能活性化と甲状腺自己免疫疾患の関連。抗酸菌のマクロファージ内寄生と排除機構。その他。</p> <p>(後藤一雄) 動物モデルを使用した感染症の分子病理研究と、タンデムリピート多型を利用した、動物系統の安定な継代のための方法論に関する研究</p> <p>(望月 眞) 組織形態学を中心とした臨床病理的な疾患解析</p> <p>(榎村浩一) 院内感染発生時の原因菌同定および薬剤感受性評価法の改良と、遺伝子検査技術の応用に関する研究</p> <p>(福田晃子) D-dimer迅速測定手法を用いて、血栓溶解療法施行中の心筋マーカーと線溶系指標の経時的変化に関する研究</p> <p>(松村 充) 各種細菌に対する最小発育阻止濃度以下レベルの抗菌薬の効果の原因探索を研究課題とし、分子細胞生物学手法を用いた研究</p> <p>(藤原孝記) 造血幹細胞移植におけるヒト組織適合性抗原の関連性。HLA・HPAに対する抗体の高感度測定法開発に関する研究</p> <p>(黒田雅顕) ICA法を用いた、ワクチン接種者選別のためのウイルス関連抗体測定系開発に関する研究</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	研究に関する文献について十分に読解すること。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に150時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時指示する。						
参考書	随時指示する。						
成績評価の方法および基準	口頭試問80%、レポート20%						
その他履修上の注意事項	1年次に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						